



水の中のオッチング

—表紙「緑水湖」秋の彩り—

対岸の一方通行の道を行くと、写真のようなポイントに着きます。秋は特に美しく山水の美を見ることができます。小さな島々の草紅葉が鮮やかです。

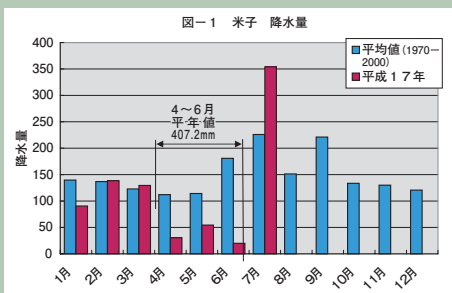
第7回 日野川フォトコンテスト入賞作品 一般Aの部 銅賞 小谷 元伸さん
撮影場所：緑水湖周辺

日野川流域 ものしい手帳

日野川、 もの知りさんに聞いてみよう・19

平成17年の^{かつすい}渇水について

日野川では、4月～6月末にかけて降雨が少ない状態が続き、米子の降雨量は、4月～6月に平年値の407.2mmに対して、今年は、105mmとわずか26%の降雨しかありませんでした。特に6月は、鳥取県内で気象台が観測している15地点のうち10地点で、最少降



雨の記録を更新するなど記録的な小雨でした。このため、5月20日頃から川の水が減り、平成6年の渇水以降、約10年振りの本格的な渇水となりました。

国道9号線日野橋下流の車尾堰では、この堰から下流に水が行かないなど、アユ等の魚類が川をさかのぼることが出来なくなることが続きました。5月20日～6月30日の42日間に36日間も越えない日がありました。



越流しない車尾堰

渇水の影響で死んだ魚(車尾堰下流)

また、米川用水では、日野川から取水できる水が減り、農業用水が不足したため、米川上流域にあたる米子市内の用水を制限し、境港市一帯に水を供給する番水が実施されるなど、川に水が少なくなったことにより、生き物や生活に悪い影響がでました。

川の水が減ると、川の水を利用している人たちは水を取ることが出来なくなります。

このため、河川管理者、川の水を利用している人たちが集まり、水を取る量をどのようにするのか相談しながら水を利用することになります。

日野川では「日野川流域水利用協議会」を組織しており、今回の渇

水では、表-1に示すように水を取る量を削減する調整を行いました。

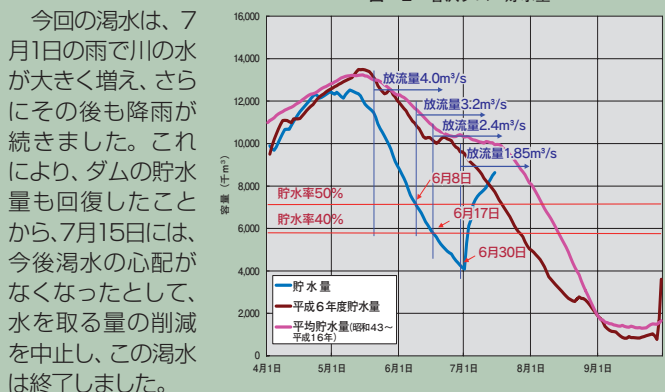
回数	開催日	概要
第1回	6月7日	農水・工水・上水を5%削減
第2回	6月16日	農水・工水・上水を20%削減
第3回	6月29日	農水・工水・上水を35%削減
解除	7月15日	削減を解除

表-1 取水量の削減状況

日野川には、菅沢ダムや賀祥ダムのように、水の使用量が少ない時期や水の多いときに貯めた水を、水が少なくなったときに放流し、川の水を増やすことを目的としたダムがあります。

今回の渇水では、菅沢ダムの場合、放流を最大毎秒4m³（一日当たり直すと、35万m³、ドラム缶173万本）行うことにより渇水被害を低減しています。

しかし、ダムからの放流を続けると、当然ダムに貯まった水も減っていき、最後には、ダムが空になり川の水を増やすことが出来なくなることから、長期間放流が出来るよう「日野川流域水利用協議会」で話し合われ、放流量を減らす措置が取られました。



日野川の年平均降水量は、約1,800mmと全国平均とほぼ同じ程度の降雨があります。しかし、このたびの渇水のように降雨が少なくなると貯えたダムの水も限りがあり川に水が流れなくなります。川に水が流れなくなれば、市民生活や経済活動に大きな支障が生じ、川に棲む生物に大きな影響を与えます。

水は限りある資源です。大切に使いましょう。